

第2話

— 芸生 —

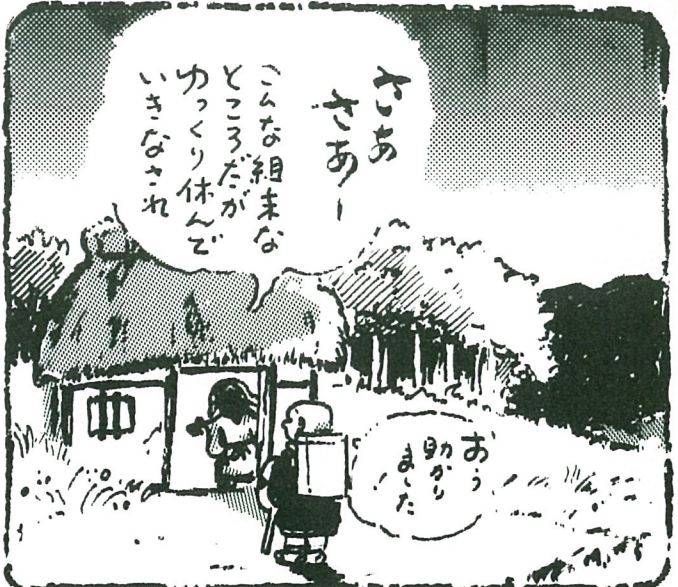
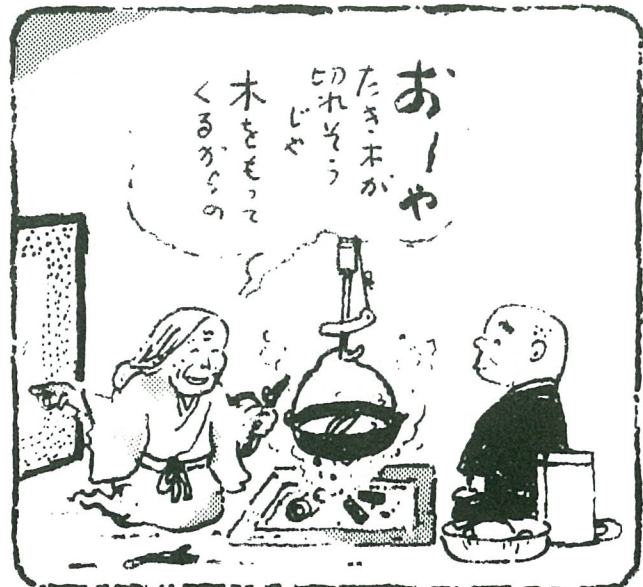
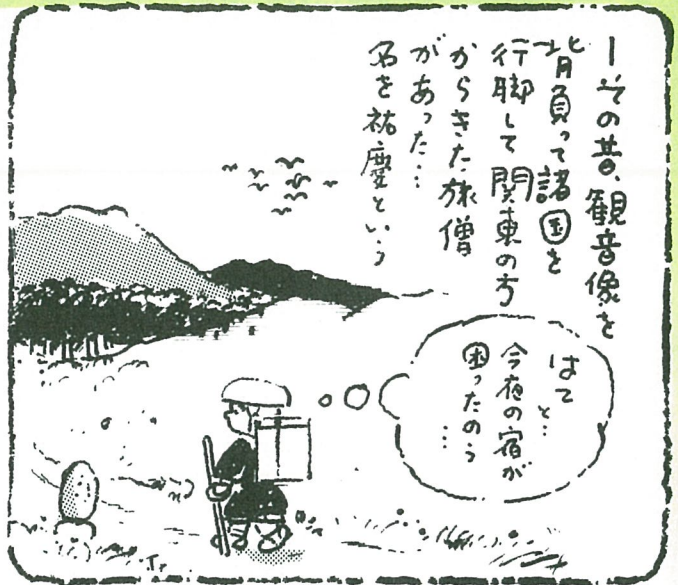
— 如意輪観世音菩薩 —  
天平年間に開眼せりという  
御丈一尺七寸の観音像



たまたがの  
民話と伝説

観音堂を建立した僧

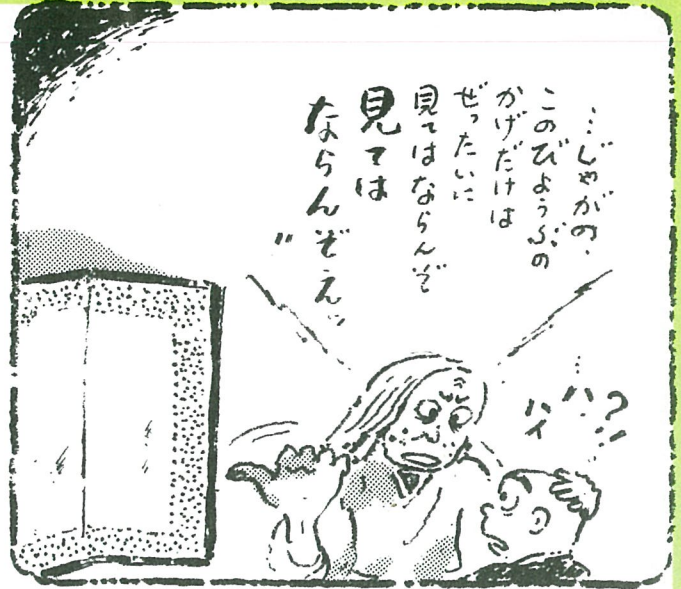
— 祐ゆう 庵けい —





「見るなと言われると  
見たいのは人の骨や」

「これは  
人骨」



「...じやがの  
このびようぶの  
かげだけは  
ぜったいに  
見はならんぞ  
見ては  
ならんぞん」



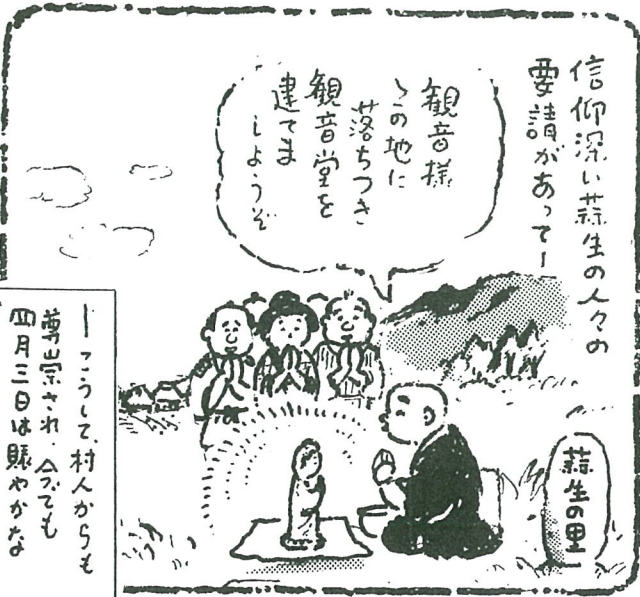
もはや逃げられぬ  
と観念して  
背負った観音像を  
おろしお祈りを  
始めた

南無観世  
音菩薩  
ナムカンセ  
オニボツ



ここにいは  
自分もあぶないと  
思った祐麿は  
観音像を背負  
って一目散に逃げ  
だした

見た  
見た



信仰深い菩薩の人々の  
要請があつて  
観音様  
の地に  
お落ちつき  
観音堂を  
建てま  
しょう

菩薩の甲

「マウして、村人から  
萬山宗やれ、ふつても  
四月三日は賑やかた  
お祭りとなって続いている



「すると  
どうしたのか  
鬼波は突然  
動けなくなつて  
しまった」  
「ナムフ...  
ダブツ...?  
高！  
これは観音様  
のお力じゃ